

報告書要旨

I. ディスプレイ

1. 2021年の市場規模

1.1 液晶モニタの市場規模（台数）

2021年の世界市場の台数実績は、前年比102%の1億4,219万台と微増した。昨年に引き続き新型コロナウイルス（以下、コロナ）の感染拡大でリモートワーク、オンライン学習、ゲーミング用途等、個人需要があるものの、パネル価格の高騰や半導体の供給課題により微増となった。

2021年の日本市場の台数実績は、前年比92%の545万台と減少した。コロナ禍における物流の混乱や、世界市場と同様の減少要因が影響したものと考えられる。

1.2 液晶モニタのサイズ別構成比（%）

世界市場における2021年のサイズ別構成では、23型以上が前年の71%に対して75%を占め、大型化が進行した。一方で、アスペクト比16:10、または16:9のワイド画面タイプの占有率は2021年で99%であった。

日本市場における2021年のサイズ別構成では、23型以上の占有率が前年の63%に対して66%を占め、世界市場に対して構成比が低いものの、同様に大型化が進行した。また、2021年のワイド画面タイプの占有率は前年の93%に対して94%を占めた。

1.3 液晶モニタの市場規模（金額）

2021年の世界市場の金額実績は、前年比120%の3兆3,668億円と増加した。昨年と同様、個人需要のゲーミングモニター等の伸張や、画面サイズの大型化のトレンドなどが製品単価を押し上げた。

一方、2021年の日本市場の金額実績も、前年比108%の1,313億円と増加した。世界市場と同様に、個人需要のゲーミングモニター等の伸張や、画面サイズの大型化のトレンドなどが製品単価を押し上げた。

1.4 パブリックディスプレイの市場規模（台数）

2021年の世界市場の台数実績は、前年比125%の547万台と大幅に増加した。文教、企業向けのオンライン需要による電子黒板の需要増や、パブリックディスプレイの多様化が影響した。

一方、2021年の日本市場の台数実績は、世界市場と同様に、文教、企業向けのオンライン需要

による電子黒板の需要増やパブリックディスプレイの多様化が影響し、前年比116%の20万台と増加した。

1.5 ノートPC用液晶ディスプレイの市場規模（台数）

2021年の世界市場の台数実績は、前年比113%の2億4,923万台と増加した。昨年と同様、コロナ禍での個人需要の伸張があるものの半導体の供給課題の影響もあり、前年の増加率129%に比べ控えめな増加となった。

2021年の日本市場の台数実績は、前年比96%の1,417万台と減少した。昨年のGIGAスクール構想の推進によって発生した特需の反動による減少と考えられる。

1.6 オールインワンPC用液晶ディスプレイの市場規模（台数）

2021年の世界市場の台数実績は、前年比129%の1,222万台と大幅に増加した。オールインワンPCからノートPCへのシフト傾向が継続するなか、2021 Q1に発売されたApple（M1 iMac）の影響が大きい。

2021年の日本市場の台数実績は、前年比142%の80万台と大幅に増加した。世界市場と同様、Apple（M1 iMac）の影響と考えられる。

2. 2024年までの見通し

2.1 液晶モニタ市場規模（台数）

コロナ禍でのオンライン、ゲーミング用途を背景に当面は個人需要が増加するものの、需要が一巡すると減少傾向となり、2024年の世界市場の台数は、2021年実績比99%の1億4,069万台とほぼ横這いの見通しである。

日本市場の今後は、コロナ禍での個人需要が一巡する一方で、コロナ後の法人向けの投資回復が見込まれ、2024年の日本市場の台数は、2021年実績比100%の543万台とほぼ横ばいの見通しである。

2.2 液晶モニタのサイズ別構成比（%）

世界市場では2024年には23型以上の占有率が78%を占める見通しである。一方で、アスペクト比16:10、または16:9のワイド画面タイプの占有率は2024年も99%以上の高い占有率の見通しである。

日本市場では2024年には23型以上の占有率が73%となり、世界市場に迫る占有率になる見通しである。また、2024年のワイド画面タイプの占有率は96%となり世界市場に迫る見通しである。

2.3 液晶モニタ市場規模（金額）

世界市場では2024年には2021年実績比103%の3兆4,753億円と増加の見通しで、台数の見通しは横ばいである一方で、ゲーミングモニターや大型化など付加価値化による製品単価の上昇により微増の見通しである。

日本市場では2024年には2021年実績比108%の1,414億円と増加する見通しであり、継続して付加価値化による製品単価の上昇が影響すると考えられる。

2.4 パブリックディスプレイの市場規模（台数）

世界市場では2022年以降はコロナ後の経済の本格的な回復を見越し、店舗、公共施設、交通機関等のサイネージ需要が復活する見通しで、2024年には2021年実績比127%の694万台に増加する見通しである。

日本市場では、サイネージ需要の回復や、電子黒板に代表されるオンラインでのコラボレーションの需要が増加により、2024年には2021年実績比117%の24万台に増加する見通しである。

2.5 パブリックディスプレイの市場規模（金額）

世界市場では2022年以降の本格的なコロナからの経済回復が見込まれ、2024年には2021年実績比122%の1兆6428億円に増加する見通しである。

日本市場では、2024年には、世界市場と同様、コロナからの経済回復が見込まれ、2021年実績比114%の400億円に増加する見通しである。

2.6 ノートPC用液晶ディスプレイの市場規模（台数）

世界市場では新興国を中心にデスクトップPCからノートPCへの移行が継続し、2024年には、2021年実績比103%の2億5,549万台と増加する見通しである。

日本市場では、デスクトップPCからノートPCへの移行の終了や、GIGAスクール構想での特需の反動に加え、コロナ禍で急激に普及した個人PCの買い替えはまだ先となるため、2024年には2021年実績比90%の1,271万台と減少の見通しである。

2.7 オールインワンPC用液晶ディスプレイの市場規模（台数）

世界市場では、近年のモバイル性の高いノートPCと、拡張性の高いデスクトップPCへのシフト傾向が継続し、2024年には2021年実績比92%の1,130万台と減少となる見通しである。

日本市場では、世界市場と同様、オールインワンPCからノートPCやデスクトップPCへのシフト傾向の継続により、2024年には2021年実績比93%の74万台と減少となる見通しである。